

## 基礎的 情報 ・ 問題点

### 小豆島ふるさと村 将来ビジョン 策定 (令和3年11月)

- ・メインテーマの検討
- ・運営指針となるコンセプトの検討
- ・宿泊施設エリア
- ・体育施設エリア
- ・道の駅・海の駅エリア
- ・キャンプ場エリア

### 〈小豆島内の基礎的情報〉

ターゲット設定の検討を行うため、現状整理の観点に『ヒト』を追加し、「観光」は全ての観点に、「交通」は『移動』に包含される視点として整理

プロポーザル時の  
技術提案書より観点変更

| 広域    | 情報             | ヒト | 環境 | 産業 | 移動 |
|-------|----------------|----|----|----|----|
| 香川県   | 香川県の観光客数       | ○  |    |    |    |
| 小豆島   | 小豆島の人口推移       | ○  |    |    |    |
|       | 小豆島の観光客数       | ○  |    |    |    |
| ふるさと村 | 小豆島の施設立地状況     | ○  | ○  |    |    |
|       | 環境（自然、景観、文化資源） |    | ○  |    |    |
|       | 小豆島内の産業        | ○  |    | ○  |    |
| 詳細    | 小豆島内の移動手段      | ○  |    |    | ○  |
|       | ふるさと村へのアクセス    |    |    |    | ○  |
|       | ふるさと村内施設の利用者数  | ○  |    |    |    |

### 現状

- ヒト：少子高齢化、コロナ禍を契機とした観光客数減少**
- 小豆島町の生産年齢人口：47.0%【令和2年国勢調査】
  - 小豆島及び小豆島ふるさと村の入り込み客数は横ばい傾向であったが、R2年度には前年の約半数に減少【香川県観光客動態調査】

### 環境：豊かな自然を活かした多様なコンテンツがコンパクトにまとまり、港を中心に分布

- 瀬戸内海国立公園に指定、土地利用状況は山林が49.39km<sup>2</sup>（町全体の51.7%）【小豆島町勢要覧2021年資料編】
- 島内の宿泊施設数：約90施設、伝統産業の体験・見学施設、固有の自然環境や文化が形成する離島景観など【小豆島観光協会】

### 産業：オリーブを筆頭に島の気候を活かした農産物や、醤油・佃煮・そうめん等の伝統的な食品産業が盛ん

- オリーブの収穫量国内第1位【特産果樹生産動態等調査／農林水産省】
- 産業生産額（小豆島町）は、二次産業が約半数、内59.2%が食料品【RESAS（地域経済分析システム）-地域内産業の構成割合-】

### 移動：日常生活・観光客の島内における貴重な移動手段として路線バス・乗り合いタクシーが運行

- 島内における移動交通手段は、外国人観光客は78%、国内観光客は29%が路線バスを利用【小豆島地域公共交通計画アンケート結果】

- 問題**
- ▶小豆島全体：地域の取組が面的な広がりを見せていない
  - ▶ふるさと村：結節点としての役割を十分に発揮できていない

### 〈周辺エリア及び全国の傾向〉

- ・インバウンドの増加  
→インバウンド市場は今後回復、高い成長率で市場拡大の見込み【アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて～稼げる地域・稼げる産業の実現～、観光庁】
- ・観光地の面的な再生・高付加価値化の推進  
→観光地が持つ固有の観光資源や特性を活かし、観光地全体としてその魅力や稼ぐ力を高める取組を推進していくべき【同上】
- ・広域連携による瀬戸内海クルーズの取組推進  
→人口減少・経済縮小が進む島しょ部へ交流人口を呼び込むしかけとしてクルーズ文化の創出を提案【瀬戸内クルーズネットワーク構想、(一社)日本プロジェクト産業協議会】
- ・瀬戸内国際芸術祭による集客等  
→「瀬戸内国際芸術祭2022」開催に伴う経済波及効果は103億円【「瀬戸内国際芸術祭2022」開催に伴う経済波及効果／日本銀行高松支店 瀬戸内国際芸術祭実行委員会】

## 課題

- I.ふるさと村を取り巻く自然環境を次の世代に繋ぐことが必要
- II.来訪者が自然と人の繋がりを実感できる施設が必要
- III.地域住民と来訪者が交流を深める機会が必要

### 〈島全体の課題〉

- ヒト：滞在時間の長時間化が必要  
若者・ファミリー層観光客の増加が必要**
- 環境：島固有の自然環境の保全と活用が必要  
観光コンテンツの充実が必要**
- 産業：伝統産業の継続的な発展が必要**
- 移動：島内の観光施設をつなぐ移動手段の拡充が必要**

### 〈小豆島ふるさと村の課題〉

- ヒト：島の観光拠点として立ち寄る人の増加が必要  
周辺住民による日常利用の促進が必要**
- 環境：海への眺望や地形を活かしたコンテンツの整備が必要  
滞在時間が増えるアクティビティや機能の整備が必要**
- 産業：島の産業を活かした体験機能が必要**
- 移動：ふるさと村から島内への移動の利便性向上が必要**

## あるべき姿

## コンセプト

## 整備方針

### ECO VILLAGE -エコ・ヴィレッジ-

- I.自然を育む
- II.自然と人を繋ぐ
- III.人と人を繋ぐ

観光・交通及び産業の結節点としてまちづくりと相乗効果を発揮する施設

人と自然・島を再びつなぐ ECO VILLAGE

### 〈各エリアの整備方針〉

- 宿泊エリア：民間活力を最大限活用し、小豆島随一の宿泊体験を提供する機能の整備
- 道の駅・海の駅エリア：観光・交通及び産業のハブとして、小豆島の情報と魅力の発信拠点となる機能の整備
- 体験・滞在エリア：陸と海の新たな滞在型アクティビティ拠点となる機能の整備
- キャンプエリア：『道の駅・海の駅』と連携し、新たな商品開発やイベント等が可能となる機能の整備

施設の老朽化等全てをメンテナンスしていくのは費用面からも現実的ではない  
→投資の大胆な選択と集中による整備を行う